

作成番号:0269

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

号数:2025-269

内容:コレステロール値を低下させる薬物スタチンと認知症リスクとの関連

出典:Characteristics of Japanese teenage suicide attempters: a retrospective study comparing suicide attempters with young adults.

Alzheimer's & dementia (New York, N. Y.). 2025 Jan-Mar;11(1);e70039. pii: e70039.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39822593/>

世界の認知症患者数は、5,500 万例に達し、2050 年までに 3 倍に増加すると推定されている。血液中の LDL(悪玉)コレステロールを低下させ、動脈硬化などを予防するスタチンには、神経保護作用があるとされているが、認知症リスクに対する影響については、多様な結果が報告されている。ブラジル・アマゾナス連邦大学の研究者らは、スタチンと認知症リスクとの関連を明らかにするため、システマティックレビューおよびメタ解析を実施し、Alzheimer's & Dementia 誌 2025 年 1 月 16 日号に報告した。

PRISMA ガイドラインに基づき、55 件の研究、700 万例超の観察研究をメタ解析に含めた。スタチン使用は、非使用と比較し、認知症リスクが有意に低かった(ハザード比[HR]:0.86、95%信頼区間[CI]:0.82~0.91、 $p<0.001$)。アルツハイマー病(HR:0.82、95%CI:0.74~0.90、 $p<0.001$)および脳血管認知症(HR:0.89、95%CI:0.77~1.02、 $p=0.093$)のリスク低下も認められた。サブグループ解析では、2 型糖尿病患者、3 年以上スタチンを使用している患者、アジア人集団において、認知症リスクが有意に低下していた。すべての原因による認知症に対し最も顕著な予防作用を示したスタチンは、ロスバスタチン:コレステロール(HR:0.72、95%CI:0.60~0.88)であった。

以上から、認知症予防に対するスタチンの神経保護作用の可能性が示唆された。

